

課題対応取組報告書

名称	住之江区安立・敷津浦地域包括支援センター					
提出日	令和	年	6	月	17	日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐ 地域や専門職とのつながり等	☒ 社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐ 認知症高齢者等の支援	☐ 自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐ その他（ ）	
活動テーマ	高齢者のアルコール使用障がいの方への支援	
地域ケア会議から 見えてきた課題	同地域にアルコール使用障がいを抱えた方が多くいる。しかし地域内に相談できるところや酒害教室、断酒会がないため、高齢者のアルコール使用障がいは支援に繋がりにくい。 大阪市内では12か所の区で酒害教室を実施しており、近隣では住吉区役所、西成区役所で実施している。断酒会は住吉公園内で実施されているが、全て高齢者にとっては遠方である。定年退職後飲酒量が増え5～10年後にアルコール使用障がいとして浮上するケースが大半である。本人、家族もアルコールの問題について、無知から問題を放任したり、気づかなかつたりすることが多い。否認の病であることから問題を認めようとせず重度化してしまう。	
対象	・飲酒の問題を抱えている本人又は家族 ・支援者（高齢・障がい） ・飲酒の問題に関心のある地域の方等	
地域特性	アルコール使用障がいや悩む高齢者は多いが、近位で酒害教室を行っているところがなく、気軽に相談できる場所がない。	
活動目標	・同じ境遇の方同士で集まる場があり、孤立を防ぐことができる。 ・当事者やその家族含む支援者、地域住民が気軽に酒害について学ぶことができる。 ・酒害教室や断酒会、専門治療への橋渡しの役割を担う。 ・依存症についての正しい知識を得ることで、地域住民の依存症予防の意識化を図り地域住民が互いに見守る関係を構築することで依存症患者の孤立化を予防する。	
活動内容 (具体的取組)	・酒害教室として「お酒と健康教室」を開催した。当人の学びの場だけでなく、他参加者と繋がれることで孤立防止や不安の解消、専門職に繋げる等の支援を実施。 参加者：飲酒の問題を抱えている本人又は家族 支援者（高齢・障がい） 飲酒の問題に関心のある地域の方等 日時：毎月第2金曜日 13：30～15：00 場所：安立連合福祉会館1階 講師：医療法人和気会新生会病院 精神保健福祉士 ASK依存症予防教育アドバイザー 小仲宏典氏 周知：地域・支援者・医療機関にチラシの配布や区広報紙の掲載、窓口への配置、口頭でのアナウンス等 開催回数：12回 参加者数：103名（主催者含）	
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	断酒会に参加している方など、他圏域、他区の方の参加が増えている。断酒できている方、節酒に取り込んでいる方、様々な当事者の方に参加してもらっている。参加者から「もっと前からこういう場所があれば良かった」「支援者と一緒に参加できるのはありがたい」等の声がある。また参加した支援者からは専門的なことを学ぶことができるのでありがたいとの言葉があった。	
今後の課題	支援者の参加が少ない。周知を続け、支援者にも参加してもらい、利用者支援に役立ててもらえるようにしたい。	
※以下は、区運営協議会事務局にて記入		
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月24日（木）	
専門性等の該当 (※該当個数は問わない)	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性	
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域包括支援センター運営協議会からの意見等を記載。	・自立支援協議会の精神ネットワーク部会でも使用障がいの勉強会をしている。一緒に開催してもいいかもしれない。 ・参加したことがあるが、分かりやすく、ためになった。支援者にも聞いてもらいたい。	

課題対応取組報告書

名称	住之江区安立・敷津浦地域包括支援センター				
提出日	令和	7	年	6	月 17 日

カテゴリー (※主なものをひとつチェック)	☐	地域や専門職とのつながり等	☐	社会資源の創設（居場所づくり等）
	☐	認知症高齢者等の支援	☒	自立支援・介護予防・健康づくり等
	☐	その他（	）	
活動テーマ	生活不活発病からの脱却 ～健康応援プロジェクトの取組～			
地域ケア会議から 見えてきた課題	・原因不明のめまいにより自立が阻害されている住民がいる。 ・集団での運動には抵抗がある、又新型コロナウイルス感染症の影響もあり、運動の機会が減り運動機能が低下している住民がいる。 ・ポリファーマシーや低栄養は自立を阻害する大きな原因となるが、意識が低く、又気軽に相談できる環境にない。 ・福祉用具や住宅改修の活用も自立支援に大きな役割を果たすが、一般的に相談はサービスの利用が前提となってしまう。 ・どういった資源があるか、何をすれば良いかわからない。 ・誤った自己トレーニングを行っていてわからない。 ・徒歩で通える所に体操教室がなかったり、デイサービスやデイケアなどの集団参加に消極的な方が多くみられる。 ・サービス利用に心理抵抗感がある。また介護認定の有無等により、医療サービス、介護保険サービスに繋がっていない方については、自立支援に対する専門的なアプローチを受ける機会がない。			
対象	・地域住民			
地域特性	安立地域、敷津浦地域とも徒歩圏内に、自由に使用できる運動器具が備わった公園がある。			
活動目標	・地域の住民が、公的なサービスだけでなく、インフォーマルな資源も活用しながら、個々の目標に対し、自身で決めたプログラムに沿って自立に向けた活動を実施することができる。 ・支援者の「自立支援」についての意識向上を図る。 ・住民の介護予防や健康寿命の延伸に対する意識が高まり活力ある人生を送ることができる。			
活動内容 (具体的取組)	めまいに関する冊子作成のため、訪問看護、薬剤師、理学療法士、包括三職種で課題の共有及び内容について検討する会議を開催した。また監修として医師にも入っていただくことになった。 『健康寿命延伸プログラムの教科書』に掲載している公園の運動器具を使用した青空運動教室を各地域ごとで開催した。 リハビリに消極的な高齢者に対し理学療法士と無料訪問し、本人、家族、支援者で居住環境の確認や本人の身体的状況を精査し、フレイル等について説明した。 敷津浦地域の「健康ウォーキング」に参画している。理学療法士による歩き方講座を2回開催。その実践版として住民と一緒にりんくう公園、長居公園、咲くやこの花館に行った。脚力に自身の無い方もあきらめることなく参加できるようコースを分けたり、ノルディックポールを用意し、膝の痛い人に使用してもらう等配慮した。 参加者には「アスマイル」とグループLINEの活用を促し歩くことの楽しんでもらえるようにしている。 安立地域では、「おでかけほっと広場」を継続。皆で一緒に出掛ける事への楽しさを通して外出や歩行の自信回復に向けた活動を継続して行った。			
成果 (根拠となる資料等があれば添付すること)	・青空運動教室では、参加者が理学療法士に積極的に自身の体のことについて相談するなど意欲的な様子が見られた。日々の運動につながっている住民もいた。 ・理学療法士との無料訪問により、介護保険サービスの利用につながった利用者がいた。 ・グループLINEでは「楽しく歩くことができた」「次の行き先が楽しみ」等前向きな発言が多く歩くことへの自信回復につながっている人が多い。 ・健康ウォーキングの参加者が年々増えている。			

今後の課題	介護保険サービスを受けるようになるとこれまで参加していた地域行事に参加しなくなる方が多い。 社会資源に興味をもってもらえるよう周知や研修などが必要。理学療法士の無料訪問だけでなく、薬や栄養のこと等についても気軽に相談でき、多角的な支援が行える環境づくりが必要。
※以下は、区運営協議会事務局にて記入	
区地域包括支援センター 運営協議会開催日	令和7年7月24日（木）
専門性等の該当 （※該当個数は問わない）	☒ 地域性 ☒ 継続性 ☒ 浸透性・拡張性 ☒ 専門性 ☒ 独自性
評価できる項目（特性） についてのコメント * 今後の取組継続に向けて、区地域 包括支援センター運営協議会からの意 見等を記載。	・地域包括支援センターが色々力をつけてきている。 ・総合相談窓口(ランチ)がない圏域だが頑張ってくれている。地域のニーズを把握している。 ・新型コロナウイルス感染症禍後老人クラブの会員も不活発になり、退会後そのまま施設入所してしまう人が増えている。 ・これから地域にインフォーマル資源を色々入れていかないといけない。